

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871900445		
法人名	㈱ほむけあ いしやま		
事業所名	グループホーム 感覚		
所在地	茨城県牛久市東大和田町312-2		
自己評価作成日	平成23年6月21日	評価結果市町村受理日	平成23年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ibaraki-kouhvu.as.wakwak.ne.jp/kouhvu/infomationPublic.do?JCD=0871900445&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成23年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの入居前の生活様式・生活環境を把握し、グループホームへの入居後もその生活様式・生活環境が極力崩される事の無いよう十分な情報収集を行い、また、ご家族の協力を得て居室等の環境を整え、利用者がホーム内において孤立する事の無いよう生活の中に居場所や役割を見出し、生活をしていると言う実感性が感じられるようなホーム運営を全職員が心がけている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念が目届くところに掲示され、日々理念に沿えるよう職員間で共有し、実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域で行われている行事に積極的参加したり、当施設で行う地域交流会にも近隣の方を招き交流を深めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談等あればその都度応じている。また、見学希望がある場合には、実際に支援の方法を見て頂きながら説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議を開き、各報告をしている。また、いくつかの議題を取り上げサービスの向上が図れるよう、話し合いを行っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要書類の提出、施設内で実施されている地域運営推進会議に市の介護相談員に出席を依頼し、その都度取り組みや状況等についての報告を行い、協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ宣言」を理念とし、勉強会を開き正しい認識を持ち、その認識の下においてケアを実践している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修及び、外部での研修にも参加する機会を設け、虐待防止に努めている。また、職員に対するケアも親睦会等を実施し、ストレスがたまらないよう配慮されている		

茨城県 グループホーム感感

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の機会を設け、制度の理解が深まるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、代表者、管理者、ケアマネが関わっており、十分な説明を行い、理解・納得をして頂けるよう配慮している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時には、利用者の状態を報告し、その都度お話を伺っている。意見の反映については書式化し、職員全員が把握できるようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案については、いつでも代表者や管理者へ提案する機会が用意されている。また、必要があれば月に一度の会議で取上げ、話し合い検討をし、その結果を運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回面談の機会を設け、また、各職員には個人目標の設定を求め、各職員の努力と評価を行うと共に職員からの提案等を考慮し、職場環境の整備を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員面談を実施することで職員の能力を把握し、スキルアップが図れるよう指導を行い、更に研修への参加の機会も設けられている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流会やイベント開催時には近隣施設に声をかけ、交流している。また、市で行われているイベントにも積極的に参加し、同業者との交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に対し、サービスを開始する以前の生活様式の情報収集を十分に行い、サービス開始後にダメージの発生により信頼関係の構築に妨げが起らないよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの運営方針やホーム内の環境整備の状態を十分に時間をかけ確認して頂き、確認時点において家族側の要望が満たされていない場合などは、あらゆる情報を収集し、改善の為に話し合いの時間を持つように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入にあたり何が最も必要とされる事柄か、ケアマネ、計画作成担当者が十分な時間をかけて対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内で職員と共に生活を築き上げていく過程で互いに支えあえ、利用者の役割を最大限尊重し、共に生活をしているんだという実感が感じれるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム生活が今までの家庭生活の延長であるという大前提の下、本人、家族が共に満足できるように、家族のホームへの介入を妨げないよう話し合いの場を常に提供している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所を具体的に情報を集め、それらがご本人から遠ざからないよう、外出等の支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のホーム内での居場所を観察し、一人ひとりが孤立しないよう、共有空間に利用者同士の関わりが出来るように支援に努めている		

茨城県 グループホーム感感

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、または家族から関係を続けたいとの要望があれば、関係性を大切にしながら相談や支援に努めている。希望があれば行事の参加をして頂いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意見を書面に記録して、職員が把握するのに役立てている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの希望や意見を書面に記録し、また、サービス利用の経過等も記録して、職員が把握するのに役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェックや顔色、動作などからいつもと違う心身の状態、有する能力等の把握に全職員が努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の意見や要望、職員会議時に職員や看護師からの意見や話し合った結果を反映して、現状に見合ったケアプランを作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送りノートに記入し、全職員での情報の把握に努め、共有しながら職員会議でケアプランの見直しや修正に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人希望の買い物の外出、散歩、ドライブ等、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスに取り組んでいる		

茨城県 グループホーム感感

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の運動公園等に場所の借用依頼をして、家族を含めた花見を開催したり、地域交流会では、ボランティアの方々に協力を頂きながら、踊り等利用者に提供し楽しんで頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週おきにホームドクターの定期健診が行われているが、この間に特変等の問題が発生した場合には、直ちにホームドクター及び家族に連絡し詳細検査が必要な場合は、本人・家族に相談の上病院受診を支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、常勤看護師の下、介護員と共に健康管理の把握をしている。また、特変時などは看護師に相談し、支持を仰ぐ。更に、定期的に看護師から介護員へ医療的勉強会が行われている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院対応が発生したときなどは、看護師が定期的に入院病院を訪問し、医療関係者と面談を重ねている。また、退院後も必要に応じて入院時の医療関係者と連携を取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や年度初めに看護師が重度化した場合や終末期など、家族からその方針について話しを伺い、その時点におけるケア方針を確認し、結果を書式化して、全職員間で共有を図っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は緊急マニュアルを常に目を通し急変緊急時に備えている。また、看護師により緊急時の応急手当等勉強会が開かれており、知識・技術の習得に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に防災避難訓練を実施している。また、地域運営推進会議等の機会を利用し、危険物安全協会会長や行政区長との話し合いを重ね、地域との協力体制の構築に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間において利用者の前で特定の利用者の名前を呼称し、行動・仕草等話題にするようなことを避け、利用者一人ひとりの人格を大切にするような言葉かけに努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に感情表出ができるような環境作りを心がけ、利用者自身が「今日はこの服にする」と言うような利用者自身から常に自己決定できる生活環境を整えることに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で何をしたいのか、どのようにしたいのか、利用者中心の生活ペースを心がけ、利用者が満足できる暮らしの提供を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節、気温、外出時の背景等を考慮し、利用者一人ひとりの個性が表現できるような、身だしなみやおしゃれを職員と利用者が一緒になって考えられるような支援を心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備に何が食べたいかを聞き、要望があればそれに応えている。メニューと一緒に考えることもある。食事の準備は軽作業のみであるが、一人ひとりの身体機能を考慮しながらお手伝いを頂いている。片付けは利用者と共に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの疾患を把握し、それに伴い水分制限や塩分制限等常に念頭に置き支援している。(時に看護師から指示を仰ぐ)。また、いつ誰が見ても水分摂取量が分かるように表に記載されている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕毎食後口腔ケアを行っている。義歯か自歯かによってケアの仕方を変えたり、舌の汚れにも注意し、必要な方は舌専用のブラシ等を用いている		

茨城県 グループホーム感感

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立している方でも、失敗を防ぐ為にこちらから声をかけさせて頂く事もある。必要以上の声かけはご自身の排泄コントロールを奪ってしまうので、注意している。立位困難な方でも数人で介助しながらトイレに座って頂いている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況をチェックしており、便秘を未然に防いでいる。一人ひとりに合わせて、腹部のマッサージ等を進めたり、飲食物での便秘予防を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご希望があればその時間や曜日に合わせ、いつでも入浴できるような体制が整っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前その方がどのタイミングで布団に入れば良眠できるかを見計らいながら就寝介助を行っている。また、日中においては、外観の様子が見えるようなソファ位置を考え、休息して頂ける環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人が服用している薬は何か、目的等の効能書きがファイリングされており、何か症状の変化等あった場合には、いつでも確認できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの身体機能に応じて役割分担があり、それを習慣にしている。また、毎月イベントを行ったり、近所の公園に行き気分転換や楽しみごとを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	すべてを把握仕切れているとは言えないが、極力希望に応えるよう傾聴し、希望等があれば買い物に行ったり、散歩に行ったりしている。職員側から声をかけさせて頂くこともある		

茨城県 グループホーム感感

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活品の購入時等に利用者に同行を促し、レジ等での支払いをして頂き、日常生活の実体験が途切れることの無いよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人との関係継続の方法の通信手段として、電話をかける、手紙を出す等利用者の自らの行為を妨げる事の無いよう、家族や友人の了解・協力を頂き支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が損なわれることの無いよう、また、利用者の方々が自然と手が出せるような雰囲気作りを継続し、親しみの持てる共用空間作りに努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が気兼ね無く食事等が取って頂けるよう座席位置の提供がされ、また、時には一人でゆっくりと新聞等読める時間が持てるよう共用空間の整備に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限りホームに入居される以前の家庭環境を再現できるよう、馴染みの品を持ち込んでいただき、生活パターンが崩れることの無いよう家族の方々の協力も得て、居室作りに努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は手摺、段差の解消を図り、利用者個々人の能力を把握し、できる事への参加を促し、生活への自立感が実感ができるよう努めている		